

あと施工アンカーの耐久性の評価方法の確立と設計の高度化研究委員会
第2回幹事会 議事録

日時：平成27年1月8日 10:00～11:15

場所：JCI 11階第4会議室

出席予定者：国枝，濱崎，渡辺，高橋，上田 敬称略，順不同

資料：第2回幹事会議事次第、WG希望調査結果と調整案

議事：

1. 委員の交代

国枝委員長より、田所委員が業務のため今後の委員会へ参加できなくなったこと、それに伴い交代委員の推薦を鉄道総研に依頼中であること、の説明があった。

2. WGの構成について

国枝委員長より、資料に基づいてWGの希望調査結果と調整案についての説明があった。その後、WGの活動方針や主査、副査およびメンバーについて議論した。主な内容は以下のとおりである。

WGの動内容について

文献調査WG：

- ・これまでの研究履歴を調査する。主に学会論文等の学術的なものを対象とする。

技術調査WG：

- ・ファスニング委員会以降の技術を、海外技術も含めて取りまとめる。文献調査が研究的なものを調査するのに対して、技術調査WGでは実務的なものを対象とする。

設計WG：

- ・当面は設計法の高度化に向けての課題などを明確にできれば良い。
- ・対象（土木、建築）や用途（設備、補強）によって設計思想は異なる。それぞれの分野における設計式や設計の考え方をまとめる。その際、設計式だけをまとめるのではなく、設計の考え方（作用、安全率、照査方法、アンカーや母材の品質、）を横並びにして、何が行われていて何が足りないか等をまとめた上で、議論を深めていけると良い。
- ・設計で使用する各種の要因の根拠は、技術調査や文献調査で洗い出す。

その他、以下の意見があった。

- ・技術調査WGにおいては、製造側からはどのように技術が変遷していたかを示すことができる。一方、利用者がどのように使用しているのか、あるいは、それがどのように変遷しているのかを知ることができるという。
- ・試験法は基本的には、設計に係わる情報であるので、設計WGの範囲内と考えられる。ただし、海外の情報を対象とした場合は、文献調査WGであるし、認証に絡むものであれば、技術調査の範囲内ともいえる。3つのWGで連携が必要である。

主査、副査、メンバーについて

主査、副査は下記の通り依頼することとした。

設計 WG：主査 中野委員 副査 佐藤委員

文献調査 WG：主査 杉山委員（副査 内田委員）

技術調査 WG：主査 高橋委員 → 幹事会にて承諾済み

WG メンバーの選定にあたっては、以下を考慮した上で、基本的には各委員の第一希望を優先した。

- ・文献調査 WG の主査には、これまでの研究動向に詳しい方が相応しいと考えられることから、杉山委員（第一希望設計 WG）に依頼することとした。
- ・技術調査 WG では、技術認証についても議論されることが考えられる。伊藤委員（第一希望設計 WG）には設計 WG の他に、技術調査 WG もお願いすることとした。
- ・WG での議論の中で方針が決まってから、さらなる人員補充もあり得ることを確認した。

3. 今後の活動の方向性について

次回の委員会では、WG を確定する。その後の予定は以下の通りである。

2月：第1回 WG

3月：第4回全体委員会

なお、文献調査 WG と技術調査 WG については、夏ごろを目途に調査結果をまとめるようにし、設計 WG については、ある程度調査した情報を基にして議論を深めていくことを確認した。

4. その他

井口委員（JR 東）から、見学会についての具体的な申し入れがあったとの報告があった。次回委員会で日程調整等を行う予定であるとの説明があった。

以上